第3次南あわじ市男女共同参画計画策定委員会（第4回）議事録

日 時：令和5年2月14日（火）14時00分～16時00分

場 所：南あわじ市榎列公民館1階大広間

出席委員：横山委員長、山口副委員長、大住委員、柏委員、新納委員、早瀬委員、
村上委員（委任1名、欠席2名）

関係人：南あわじ市市民福祉部福祉課 吉原副課長

同 総務企画部ふるさと創生課 山下主任

事務局：勝見総務企画部付部長（企画担当）

ふるさと創生課：秦課長、濱田係長、坂本主事

子育てゆめるん課：中嶋課長、稲本係長

次 第：1. 開会

2. あいさつ

3. 協議事項

協議① 第3次南あわじ市男女共同参画計画 草案について

協議② 第3次南あわじ市男女共同参画計画にかかる意見募集
について

4. その他

その他① 男女共同参画計画策定委員会開催スケジュールについて

5. 閉会

次第 開会

事務局：定刻になりましたので、只今より第4回南あわじ市男女共同参画計画策定委員会を開催させていただきます。

初めに、本日の出席者数及び傍聴者数をご報告させていただきます。出席者数7名、委任による出席者1名、欠席者2名です。過半数の出席をいただいておりますので、南あわじ市男女共同参画計画策定委員会条例第5条第2項の規定により、本委員会の成立を報告します。また、本委員会傍聴規程に基づく、本日の傍聴者は0名でございます。

続いて資料の確認ですが、次第、計画草案、意見募集についての資料、意見様式、スケジュールの計5点です。

前回ご提案があった通り、今回も市職員2人が関係人として出席しています。

開催に当たり、横山委員長からごあいさつを頂きます。

次第 あいさつ

横山委員長：今日、初めてバスで来て、歩いておのころ島神社に参拝してきました。山もあり、海もあり、素敵な南あわじ市と思いました。さらにいい市にな

りますように、皆さまの忌憚のない発言をお待ちしています。

事務局：委員長ありがとうございました。

また、本日も前回に続き、ジャパンインターナショナル総合研究所が同席しています。

次第3の協議事項に入ります。以降は、規定により委員長が議長を務めますので、横山委員長に進行をお願いします。

横山委員長：前回、どのような南あわじ市にしたいかについて意見を頂きました。

この計画は男女共同参画へ向け一人ひとりがいきいき輝くことがベースにありますので、本日は皆さまの自慢を一言お話ししていただけたらと思います。

山口副委員長：家庭円満で子どもたちに恵まれ、生まれ育った村には誰も排除しない素晴らしいコミュニティがあります。いろいろな方が移り住んできますが、自治会の役員が訪ねて回り歓迎しています。素晴らしい街と思っています。

大住委員：中学3年生の進路に向けた取り組みの最中で、推薦を前にした面接練習が行われています。機械系を希望していた女子生徒がいて、こうした委員会のメンバーでありながら、「女の子が機械系か」とふと思って自分でもその考えではいけないと感じています。生徒は「自動車整備士になりたい」と将来の目標を述べましたが、目指す自分の進路には男女の区別はありません。実現するように合格を切に願っているところです。

柏委員：免許の受付業務をしています。以前は30年近く交通ルールを教えたため、かつて教えた子どもたちが免許の書き換えに訪れます。皆、私の顔と声を覚えていてくれます。子どもたちの成長ぶりや当時のことを思い出し、運転に気をつけるようにと言えることをありがたく感じています。子育てと両立させながら仕事をこなし、地元の婦人会長を務めた中で地域の良さを味わえたことが成長につながったと思っています。消防活動を通じて地域の防災に関わりを持てることも今後のプラスになると思います。

新納委員：農業の魅力やPRについて考えています。また、高齢者が多い中で若手農家をどうしていけばいいのか考えています。タマネギの農作業風景の写真や動画を撮ってSNSで消費者に配信しています。淡路島の農作物に関心を持っている人も増え、農作業を体験しに来てくれる人や、「農業をしたい」「島に住みたい」と思っている人が増えて移住を口にする人もいます。島について発信することで、こうした交流が生まれ、うれしく思っています。今後もこうした発信を続けていきたいと思っています。

早瀬委員：皆さまがお話しされる、社会との関わりを通じた話を聞いて感心しました。私は、今日行くところをたくさん作り、スイミングなど体を動かして楽しんでいきます。地元の社協などが推進している「いきいきサロン」の世話係を8年以上続けており、その活動の中から始めたグラウンドゴルフを週一で楽

しんでいます。週末はジャズダンスやエアロビ、ヨガをしています。何も考えずに発散することで楽しい日々を過ごしています。今の生活ができるだけ長く続けられたらいいと思います。

村上委員：自営業で食料品店を営んでいますが、いつもお客さんとの会話で前向きな気持ちになって助けられています。南あわじ市と淡路島の商工会の女性部長を務めており、先日はSDGsに関連したせっけんづくりなど、島の資源を使った商品の開発やコロナ禍による観光客の減少対策などについて発表しました。

吉原関係人：南あわじ市の知らない情報がテレビなどで紹介され、地元を再発見したりして情報発信のすごさを感じています。ご当地グルメを紹介するテレビ番組が市に来たら、何を紹介しようかと妄想を膨らませるのが最近の楽しみです。

山下関係人：家庭でも職場でも、必要なときに助けてもらえる環境が身近にあることが自慢です。逆にこちらも求められたときには、喜んでお手伝いしたいと考えています。

柏委員：せっかくなので、事務局の方にも自慢をご紹介いただきたいです。

横山委員長：そうですね。素晴らしいご提案をありがとうございます。

濱田企画調整係長：榎列地区の公民館も初めて来ていい施設だと感じています。おのころ島神社もこれまで行ったことがなく、実際に現地に赴き見てみるのが大事だと思いました。この計画についても、まずできるところからやってみることが大事と感じながら、審議をお願いしたい次第です。

秦ふるさと創生課長：生まれも育ちも榎列地区ですが、PTAや自治会の役員を経験する中で町が少しずつ発展していき、町づくりに関わることができてありがたいと思っています。通勤も10分で行けることもあり、子育てをしていく中で、自分の時間をつくれるのはよいことと思っています。一時地元を離れていたからこそ、ふるさとの良さを感じています。仕事を通じていろいろな人と出会えることも財産と思っています。

勝見総務企画部付部長：南あわじ市に住むことができたことが自慢と思っています。3年前経産省から出向し、2年の任期が1年延びて帰任する運びでしたが、今日1カ月延びました。1カ月ですが私にとっては大きいと思っています。ここに住み、人や自然など関わったことすべてについてこれほど自慢できることはないと思っています。先日、高校時代の友人が訪ねてきて、地元を案内すると感動してくれました。1カ月延びたので満喫して帰ろうと思っています。

中嶋子育てゆめるん課長：今年度になって子育てゆめるん課長を拝命し、初めて1階の福祉部門に来ました。ジェンダーは家庭にあるといわれるように、自身

が家庭で何をしているか振り返ることがあります。実際、家庭では「ありがとう」の言葉が少ないです。帰宅しても妻が気を遣って弁当箱を洗っていてくれたりします。このポジションについて普段の生活を振り返りながら住民の方もどうかという頭の整理をしています。

横山委員長：ありがとうございました。皆さん一人一人の顔が見えるのは素敵なことだと感じながら、お聞きしました。

それでは、事務局に資料の説明をお願いします。

次第 協議事項 協議① 第3次南あわじ市男女共同参画計画 草案について

事務局：協議事項①第3次南あわじ市男女共同参画計画草案についてご説明いたします。

27 ページの「第3章 計画の基本的な考え方」では、「すべての人が活躍するまちへ」を基本理念とし、できることから市が一丸となって男女共同参画に取り組むことをうたっています。

28 ページでは、「基本理念」に基づき、1から3の「基本目標」を設けていますが、性的マイノリティの対応などはすべての項目に該当するため、冒頭の文章に記載している通り、「性別に関わらず自分の特性を生かして活躍できる社会の実現」に向けて基本目標を定めています。このうち、前回の会議で基本目標3の「家庭の中での「教育」という言葉が分かりにくいというご指摘を受け、「子ども世代から性別に捉われることのない価値観を身に付けられるよう学校教育や社会教育の学びを活かしながら、家族がジェンダー平等のモデルとして家庭における役割分担を見直すことができるように啓発する」と整理しています。

29 ページは計画の体系についてです。基本目標1～3の「職場」「地域」「家庭」のシーンごとに基本施策を掲げ、取り組みを示しています。

30 ページの「第4章計画の内容」の構成につきましては、まず総合的な目標値を定めた上で、基本目標1～3でも目指す社会像について目標値を設けて施策を並べ、さらに施策についての行動指標となる「KPI」を設定しています。総合的な目標値としては、「社会全体で性別に関わらず平等と感じる市民の割合」を掲げています。目標値につきましては、5年後の社会情勢を予測することはできないため、こんな南あわじ市にしていくのだという思いから数値を掲げさせて頂いております。

「自分らしく働き活躍できる」ことを目指す基本目標1では、有休取得や介護休暇制度、ハラスメント対策に関する取り組みについて記載しています。31ページの現状では、アンケート結果を記載しています。「基本施策（1）誰もが自分らしく活躍できる」の施策としては、「ワーク・ライフ・バランスを実現する職場づくり」、「一人ひとりの能力に応じた評価・人材登用の推進」、「ハラ

メント対策の推進」、「多様な性についての正しい理解」などの4つを掲げています。それぞれの施策の中では、市内事業所の優良事例の周知、育児休暇等の取得に向けた職場の意識づくり、雇用での男女平等な機会と待遇の確保に向けた啓発、研修などを通じたハラスメントの防止対策、職場での多様な性に関する情報提供などの取り組みを記載しています。

これらの施策の KPI として、育児休業の取得率や市の子育てコンソーシアムの勉強会などの参加事業者数の数値を設定しています。KPI については「市役所」と書いてあるものは市役所の行動指標、南あわじ市と書いてあるものは市全体の行動指標となっております。

「基本施策(2)誰もがなりたい自分になるためにチャレンジできる環境づくり」では、職場で男性が優遇されているとのアンケート結果等を受け、女性や若者、高齢者の活躍を後押しするための施策を展開しています。「①女性のチャレンジの推進」では農業や漁業での活躍、「②若者のチャレンジの推進」では就業希望者への情報提供の充実や起業支援、「③高齢者のチャレンジの推進」では、就労促進などの取り組みを記載しています。

これらの施策の KPI は、市役所での管理職の女性割合を 26.0%まで引き上げるとした設定をしています。また、市全体では仕事と家庭を両立している女性について、広報紙等での積極的な紹介回数などを設定しています。

横山委員長：これまでのところで意見はありますか。

では、35 ページの「①女性のチャレンジの推進」における、5 番目の「若者世代への講演を通じた女性農業者のステップアップの推進」で、かっこ内の記述が他に比べ具体的になっていることに違和感があります。イメージとして新納委員のような方を輩出させたい意図を感じたのですが、その受け止め方でよろしいでしょうか。

新納委員：講演会は多く開催されます。農家の方が自分の経験を話したりして、若い人から年配者まで交流していますが、そういう意味でしょうか。こうした活動を通じての横のつながりができたりしています。

事務局：ご指摘の部分は、所管の農林振興課の思いが強く、文言が細かくなっているところがあります。かっこ書きの部分は補足的に書かれているもので、他との整合はとれていません。

横山委員長：講演を通じたステップアップが目的なのか、ステップアップして講演して発信することが目的なのかが分かりにくいです。

事務局：農業女子プロジェクトは、単に PR するだけでなく、農業女子の皆さんが、農業の知識に加えて人前で自分の考えを説明、発表する力も併せて高めていきたいとの狙いで記載しています。

横山委員長：例えば「女性農業者の発信力の推進と支援」など、「ステップアッ

プ」のところがニュアンスが変わるので、考えてください。

山口副委員長：全体的な話になりますが、それぞれの施策がイメージとして、共通的なものとなるため注釈が必要です。後から注釈を付けていただけるかと思いますが、コンソーシアムなど横文字が多いため配慮をお願いします。

また、今のお話で分かったのですが、複数の課でもって、このことを進めていく、複数の課の合意形成のもとで施策をこの計画に落とし込んでいるという理解でよろしいですね。ありがとうございます。

32 ページに記載のある施策のワーク・ライフ・バランスで、「市職員に定時退庁を促す」と穏やかな表現で書いてありますが、市役所が徹底していけば、周囲の事業所も見習いやすいと思いますので、もう少し強いトーンで表現してもいいと思います。

32 ページの「②一人ひとりの能力に応じた評価・人材登用の推進」で「複数の手段を通じて発信する」とありますが、手段について具体的な記述があってもいいと思います。

事務局：担当課によると、ポスターの掲示やホームページへの掲載などを加えており、そのような書きぶりでもいいでしょうか。一般的には、啓発等についてはポスター掲示、チラシ配布、SNS、ホームページなどが主なところです。

横山委員長：発信の方法で意見はありませんか。

山口副委員長：市職員一人ひとりの発信力も、我が事として進めていくことはあってもいいと思います。市役所のルールもありますが、難しいことではないと思います。「この人が言っていることは信用できる」など、人と人のつながり、関係性からいうと、庁内全体で、また住民一人ひとりが取り組んでほしいと思います。

横山委員長：他にお気づきの点はありませんか。

早瀬委員：32、33 ページに出ているコンソーシアムは初めて聞く言葉で、注釈が必要ではないかと思います。

事務局：横文字等については注釈を設けたいと考えています。

横山委員長：別途注釈を設けるのではなく、例えば「提案し協議する共同体（コンソーシアム）」と記述すれば読みやすいかもしれません。脚注も場合によっては、いちいちページを飛ばすことになり、頭に入らない場合もあります。

事務局は引き続き説明をお願いします。

事務局：続いて基本目標2です。3つのシーンのうち2つ目となる「地域」での活動目標についてです。性別役割分担を持たない地域像を描き、自治会やPTA活動など地域活動の場で平等と感じる市民の割合や、「男は仕事」「女は家事・育児」という考え方に同感しない高校生の割合を目標値に掲げています。

基本目標2は3つの基本施策で構成しています。

そのうち、基本施策（１）「多様な生き方・価値観を尊重できる意識づくり」では、「男女共同参画について学ぶ機会の提供」、「学校における男女共同参画の推進」、「多様な性についての正しい理解」の３つの施策を掲げ、セミナーや講演会などの学習機会の提供や広報・啓発、男女共同参画の視点での学校教育、キャリア教育、DV（家庭内暴力）の未然防止、多様な性を受け入れられる制度（パートナーシップ宣誓制度など）の設置等について取り組むこととしています。

KPIは、教職員が男女共同参画を学ぶ研修回数、セミナーなどの参加者数を設定しています。

基本施策（２）「誰もが参画できる地域づくり」では、地域で男性優位の組織運営が残る中で、男女共同参画の意識が浸透するように、「①政策決定の場への女性登用の促進」、「②男女共同参画による地域活動の推進」、「③男女共同参画による防災対策の促進」の３つの施策を掲げています。これらの施策の取り組みとしては、審議会等での女性の積極登用の継続や地域の女性参画への支援、消防団活動への女性参画の推進などをうたっています。

KPIは、市役所での管理職に占める女性の割合、市全体でも審議会等の女性登用率などを設定しています。

基本施策（３）「互いに協力し、支え合う地域づくり」は、男女共同参画に必要なこととして、女性が安心して出産・子育てができる環境の整備や保育・介護サービスの充実を掲げ、「①子育て世帯への支援」「②ひとり親家庭への支援」「③高齢者の生活への支援」「④生涯を通じた健康づくり」の４施策を掲げています。具体的な取り組みの内容としては、延長保育や一時保育などのサービスの充実、自立支援の充実、介護予防事業の実施、健診（検診）の受診勧奨による早期発見・早期治療などを記載しています。

それらのKPIとしては、アフタースクール（放課後子ども授業）の開設校区数やひとり親家庭からの相談件数を設定しています。

以上が基本目標２の説明です。

事務局：39 ページの「③多様な性についての正しい理解」で、パートナーシップ宣誓制度を創設し、また下段に「公文書（説明書等）や申請書から性別欄を削除します」としており、言い切りの表現になっています。「これさえやればいい」ということではなく、制度として手当をすることにおいて考えられることとして、パートナーシップ宣誓制度や公文書等の性別欄削除「等」と記述する方が、誤解がないのではと考えています。

また、45 ページの施策で、「支援」という言葉を使っていますが、母親だけが保育園に迎えに行くなど、働きながら子育てを行う母親に負担がかかる状況が往々に見られます。この状況を制度の面から手当しようという意図でこの

言葉を使用しています。必ずしも「支援」という言葉が適切とは限りませんが、多様な保育サービスの充実として一時保育や延長保育などを書いていますので、子育て世帯で男女いずれかに負担がかかることが物理的になくなることを考えたものです。この「支援」という言葉が適切かどうか不安に思いましたので、補足させていただきます。

横山委員長：確かに言い切りになると、それだけやればいいというニュアンスになりかねませんが、39 ページの「パートナーシップ宣誓制度を創設」は推進につながるのでは、違和感はありませんでした。ただ、パートナーシップ宣誓制度については、制度の設置を記載することはかなりの決意を持たないといけないため、尽力されたのだと思います。また男女共同参画で防災をピックアップすることは、南あわじ市の女性の防災組織がしっかりしており、そこを突破口とするもので、市の特性を生かした書きぶりになっています。

柏委員：20 人だった「なでしこ」の定員が 2 年前に 35 人に増え、現在 27 人います。35 人まで増やして、各地区に「なでしこ」団員が 1 人ずついれば、もしもの時の備えや避難所運営の際に役に立つのではないかと思います。また各地区の避難所運営の方法を共有し、安心できるように 3 地区での団員増へ向けてがんばっています。

山口副委員長：39 ページの「②学校における男女共同参画の推進」にあるキャリア教育という言葉が分かりにくいです。福祉介護の現場は人材確保が難しいです。例えば、滋賀県大津市では、中学・高校生向けの福祉介護の仕事の魅力を紹介しています。南あわじ市でもそういう素材の開発や周知を検討してほしいと思います。

47 ページの KPI で掲げている「ひとり親家庭からの相談件数」について、掘り起こしを進めるという意図は分かりますが、福祉関係者からすれば相談件数は少ないほうがよいです。また、45 ページ「②ひとり親家庭への支援」にある「相談に応じ」という表現は来所を待つというスタイルと理解しました。しかし、相談を減らすための取り組みとしては、実際にその家庭の元に赴いて暮らしを見るアウトリーチがスタンダードになってきていますので、その辺はご一考いただきたいです。

現在、各団体と連携しひとり親世帯に食料を配布していますが、来ていない人が気になります。毎回アンケートを取り、現状把握は積み上げてきていますが、次のステップへの踏み込みが私たちの課題になっています。共同参画の計画とは少し離れるかもしれませんが、関係機関との連携も含め、相談についてはアウトリーチも考えてほしいと思います。

横山委員長：ある市の話ですが、実施したアンケート調査だけでは分からないことをヒアリングしたそうです。その結果、市は知らなかったが、関係機関は

知っているリアルな情報があり、連携が必要と感じました。市役所側から出向いてヒアリングをするなど、もう一步踏み込んだ対応が必要と思いました。

事務局：ご指摘のあった「ひとり親家庭の相談支援」については、家庭と仕事の両立等の相談に応じるという記述となっています。母子・父子支援員を置き、実際に家庭に訪問していますので、アウトリーチ型となっています。

ひとり親家庭の相談件数増についても、減ったほうがいいことだと内部でも議論があり、改めて考えたいと思います。相談支援の充実については、どのような活動をすれば支援の充実につながるか、指標としての表し方が悩ましいところですよ。

山口副委員長：その世帯の暮らしぶりの把握がなければ、次の施策につながりません。これまでも市職員と話したところ、「実際家に行ったことがあるのか」というケースがありました。そこを見ずに「できない」など判断しないでほしいと思っています。大きな計画からそういうことを発信し、職員の皆さんも大変かと思いますが、是非、一住民として心にとどめてほしいと思います。

横山委員長：教育について、お気づきの点はありませんか。

大住委員：これを見る限り、今考えられるのはこのくらいかと思っています。KPIは数値評価がなされていますが、数字で表しにくいところは、現状を踏まえて望ましい将来像を文言で言い表してもいいのではないかと思います。数字で出すには何らかの調査が必要になり、それがまた負担にもなります。今回は難しいかもしれませんが、今後そういう視点があってもいいと思いました。

横山委員長：事務局から何かありますか。

事務局：ひとり親家庭であっても男女に関わらず活躍でき、制度面での支えで生活できることが最も重要かと思っています。そのような状態になるという目標達成へ向け、どのような活動をしたかがKPIになってくると思いますので、表現は検討させてください。社協だけに限らず福祉に関係するすべてからのサポートで、そうした家庭がしっかり生活できることかと思っています。

山口副委員長：45 ページ、「子育て世帯への支援」での「児童の安全な居場所の提供について」、「交流により」と書かれています。高齢者等元気対策推進事業と関係して、高齢者と子どもとの関わりの中で、双方が元気で豊かになると思いますが、そのあたりの一文を入れてみてはどうでしょうか。

早瀬委員：「子育て世帯への支援」で十分な保育サービスの充実と書かれてありますが、そのための環境づくりには保育士らの増員が必要になります。市内では担任していても非正規の保育士がいる話を聞きます。施策には保育士の正職員化や増員などは入ってこないのでしょうか。そういう対策があれば、うなずけます。

柏委員：以前、保育士の募集要項での募集人数などを見て、充実していると感じ

ました。正規職員の採用についてはいいと思います。

事務局：正規職員はクラス担任を持ち、非正規（会計年度任用職員）のうちフルタイムについては担任を持ってもらっています。子ども 35 人以上に 1 人の保育士の配置などの配置基準などがありますが、大人数を 1 人で持つのは困難なため、それに加えてクラス担任を持つために会計年度任用職員にお願いしています。ただ、全体的な人員計画の中で工夫しながら、フルタイムの会計年度任用職員に担ってもらっています。

村上委員：保育園に子どもを預けている家庭の話ですが、下の子どもの出産と同時に母親が仕事を辞めたことで、通所していた 3 歳児未満の子どもの退所を求められたそうです。結局、母親 1 人で 2 人の子どもを見ることになり、「3 人目は産めない」と話しているそうです。他市では預かってもらえる話をしている、こうしたことの確認と検討をお願いします。

事務局：村上委員からご指摘いただいた件については、3 月の広報紙でお知らせしようと思っていたところでした。育児休業を取得した場合、家庭での保育が可能となり、「育休退園」になります。市の場合、3 歳児以上については、小中学校への進学準備や集団生活に慣れるために継続利用を認めていました。2 歳児以下についてはご指摘の通りです。背景には、2 歳児以下の受け入れが難しかったことがあります。この少子化の中で、4 月からは年齢にかかわらず継続利用を認めていく方向で決定しています。

村上委員：いったん退所した後、再度入所を希望した場合、受け入れてもらえるのですか。

事務局：退所した人には個別に連絡しています。

早瀬委員：47 ページの「アフタースクールの開設校区数」の KPI 目標値が 15 となっていますが、各学区に 1 つということですか。放課後の子どもの居場所は大切ですから、根拠を教えてください。

事務局：放課後の子どもの健全育成授業は小学校単位で行い、全校区で実施するというので 15 としています。

横山委員長：かっこで囲み、「全校区で」と記すといいと思います。

それでは、「基本目標 3」について事務局の説明をお願いします。

事務局：48 ページの「基本目標 3」は、家庭のシーンを考え「互いを認め合い、より暮らしやすい毎日に向けて」としています。目標値は家庭での性別役割分担意識を持たない市民の割合を掲げ、DV 根絶もうたっています。

基本施策（1）は「互いを認め合い、助け合う家庭づくり」を掲げ、「①多様な家庭への理解促進」、「②男性の家事・育児・介護への参画促進」の 2 施策を掲げています。男女共同参画を実現するためには、職場での環境づくりに加え、地域や家庭生活で男女が平等に役割を担い、性別役割分担意識を変えること

が必要との認識に立ち施策を打ち出しています。具体的には、「①多様な家庭への理解促進」では、家庭におけるジェンダー教育やジェンダー平等を考える機会の提供、「②男性の家事・育児・介護への参画促進」では、家事・育児参加への男性のポジティブアクションの啓発について記載しています。KPIは育児休業の取得率や家事・育児セミナーの開催回数を設定しています。

基本施策の2番目は「DV（ドメスティック・バイオレンス）の根絶」です。市民意識としては、知っているが対応が分からないなどが考えられ、「①暴力を根絶し、人権侵害を許さないための啓発」「②相談機能や自立支援の充実」を施策に挙げています。「①暴力を根絶し、人権侵害を許さないための啓発」では、DVの防止や早期発見、相談体制の充実、「②相談機能や自立支援の充実」では、DVの2次被害の防止や自立支援について記載しています。KPIは、啓発回数や学校教育での人権学習の内容について家庭へのフィードバックを行う学校数を設定しています。

横山委員長：個人的な感想ですが、小学校の授業参観に父親が普通に来れば変化があると思います。職員も授業参観への参加を促す一文が入れば具体的に目に見えて変わるのではないかと思います。

大住委員：中学校の授業参観に夫婦で来ている家庭が多く驚きましたが、最近はい多いようです。教職員は参観日などの際、子育て支援休暇を取れるようになっており、制度によって雰囲気も変わると思いました。かつては母親ばかりで、今は雰囲気的には変わってきています。

柏委員：私の経験でも、35人学級のクラスに夫婦で来ていたのは数組で母親ばかりでした。しかし、今では夫婦でどこにでも行っていますから環境的には優しくなりました。

新納委員：自営業のため時間に縛りがなく、夫と一緒にいかないかと言ったり、逆に参観を頼むこともあります。父親が1人で来ているケースも多いようです。

横山委員長：市役所のほうから見ていかがですか。

吉原関係人：行政職員でもいるとは思いますが、少ないのではないのでしょうか。保育所の行事などでは多いように思います。

横山委員長：皆様のお話を聞いて、進んでいると感心しました。

山口副委員長：48ページの基本施策（1）に、「男女共同参画社会の実現に向けた大きな障害」との表現があります。「障壁」「壁」「ハードル」などではどうでしょうか。言い方はいろいろとあると思いますが、「障害」ではないと思います。

また、52ページの事業の概要欄に「法テラス等」とあります。これまで市内に弁護士事務所はありませんでした。今後、司法との関係が重要になってきます

ので、この記述はうれしく感じましたので周知をお願いします。

新納委員：50 ページに「家族で参加できる家事・育児イベント等を実施」とありますが、中学・高校生などは対象になりませんか。年齢を重ねるほど、家族のふれあいが無くなってきますので、年齢に関係なく家族で参加できるイベントを考えればいいと思います。

事務局：50 ページの KPI で「家事・育児セミナー等の開催」を現在年間 1 回から 10 回に増やすように考えています。その中で、これまでは未就学児連れの家族向けセミナーが多かったのですが、それ以外にも拡大できたらと、頂いた意見も踏まえ考えていきます。

横山委員長：今お話があったように KPI が劇的に上げられているのは決意の表れで、ありがたいと思います。

では、続いて、協議②第 3 次南あわじ市男女共同参画計画にかかる意見募集について、事務局から説明をお願いします。

次第 3 協議事項② 第 3 次南あわじ市男女共同参画計画にかかる意見募集について

事務局：草案 53 ページの第 5 章についても併せて報告します。庁内の推進体制の強化と進捗管理について記載しています。

第 3 次計画にかかるパブリックコメント（意見募集）については、2 月 17 日（金）から 3 月 2 日（木）までの 2 週間の募集期間を想定しています。本日まで委員から頂いた意見も踏まえ、計画を修正して意見募集の実施を考えています。意見募集の方法は、市のホームページに草案を掲載し、公民館や出張所、市民交流センターなどでも閲覧できるように考えています。また意見募集の対象者や様式については、①から④に記載しております。本市に何かしら関係する方でしたら、どなたでも意見していただける形です。このような形で意見を取りまとめていければと考えています。

横山委員長：この点について何かありませんか。

山口副委員長：パブリックコメントについては、他の計画策定の際でも応募が少なく、市民が行政に参画できる貴重な機会が生かされていないことを残念に思っています。市民が自分事として計画に引き寄せられる見せ方ができないかと思います。アンケート調査に協力した高校生や事業所などに関係した部分の計画案をフィードバックし、それに関する意見だけでも貰えればいいと思います。ぜひそういう工夫をお願いします。

事務局：市の総合計画などでは多数の意見を頂いています。納得があれば異議は出てこないと思いますが、目に触れることが重要で、情報が届いているかについて常に考え、対応可能なことがあればトライしてみたいと思います。今後、パブコメを募集しながら引き続き委員からも意見を頂き、最終的な案をまと

めたいと考えていますがよろしいでしょうか。

一同：事務局と委員長に一任いたします。

横山委員長：事務局にいったんマイクをお返しします。

次第4 その他

事務局：横山委員長、進行をありがとうございました。

「その他」で1つ報告させていただきます。計画スケジュールですが、2月17日から3月2日までパブリックコメントを実施します。広く意見を募集し、可能な限り反映していきたいと考えています。3月17日午前に5回目の策定委員会の開催を調整中ですので、ご予約いただきますようお願いいたします。パブリックコメントの結果や考え方の報告に加えて最終案を示し、最後に市長への答申になります。改めて委員の皆様にはご案内をさせていただきますので、引き続きご協力をお願いします。

それでは、閉会のあいさつを山口副委員長をお願いします。

次第5 閉会

山口副委員長：これまでの議事録を拝見する中で、委員の皆さんの顔を思い浮かべながら活発な議論を頂いたことに感謝を申し上げます。また、横山先生はすごい回し方だと思いつつも拝見しております。冒頭にも申し上げましたが、10月の初旬から先月の半ばまで3か月療養しておりました。職員たちが私の様子を見て休むように進めてくれ、その後、信頼している先生に診断して頂き、今日こうして出てくることになりました。病気になってから家族に、特に妻に頭が上がりません。毎日1つ1つのことにありがとうと言葉を添えています。今後ともどうぞよろしくお願ひしたいと委員の皆様にも感謝の気持ちを添えて閉会のご挨拶とさせていただきます。事務局の皆様も含めお疲れさまでした。ありがとうございました。